

11月13日 岡田保育園 公開保育を実施しました

今年度最後の公開保育・グループワーク・カンファレンスを岡田保育園にて実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただきました。

岡田保育園では、豊かな自然、四季折々を感じられる空間と穏やかに流れる時間の中で子ども達が自分の好きな遊びに夢中になって過ごしていました。広すぎず、狭すぎず、ちょうどよい空間とゆったりとした時間の流れに参加者も優しい穏やかな気持ちになりました。

【公開保育 研究テーマ】

「夢中になって遊び込む」をテーマに日々保育実践している。秋も深まり、子ども達の興味関心、やりたいこと、試したいこと、経験も様々重ねてきている。盛んになってきている自然素材、身近な教材を使つての製作遊び・ごっこ遊び等を保育者が、どう広げ、つなげていけばよいかを話し合い、保育の充実に取り組んでいる。本園の環境を通して、子ども達は何に気付き、学びへとつなげているかを考えていきたい。

◎環境と子どもの姿 ◎子ども同士の関係性 ◎保育者の関わりと子どもの姿

以上の視点で保育を見とって頂きたい。

参加園

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	倉梯幼稚園
さくら保育園	三鶴幼稚園
昭光保育園	舞鶴幼稚園
タンポポハウス	
なかすじ保育園	(50音順)
東山保育園	
やまもも保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

公開保育

木のおもちゃ、自然物、手作り玩具がどのクラスにも共通して意識されている… 豊かな自然を満喫できる素敵な環境を大事に

～北野先生カンファレンスより～



【興味や発達に合わせた玩具】0・1歳児

保育室には個々の興味や発達に合わせた手作りの玩具があちこちに設置されており、それぞれ自分の好きな遊びを見つけたり、保育

者の膝の上に座って絵本を読んでもらったり、歌いかけてもらったりしながら安心して過ごす姿が見られました。ウッドデッキに出ると幼児クラスの子どもが声をかけてくれ、笑顔で近づいていく子の姿も見られました。

<北野先生コメント>

マラカスは、0・1歳児はヤクルトの容器ぐらいの大きさがちょうどよいと思われる。ラムネの空き容器もちょうど握りやすいサイズだった。子ども達の指サイズや手のサイズを意識して用意されていると感じた。

ガムテープの輪を壁に掛ける玩具の高さが少し高いと思つたが、背伸びをするとちょうどよい高さになっている。ちょっと手を伸ばしたりつま先立ちしたりということが子どもたちにとって楽しくなる工夫がされていると感じた。

園庭が見えるウッドデッキは、0・1歳児の子が外にいる子と関わりを持とうとしていたり、リレーの時にもデッキから幼児の子を応援する姿が見られたり、異年齢の子との交流や憧れの気持ちをを持つことができると感じた。



【ままごと・絵本・手先を使った遊びのコーナー】2歳児保育室に大人が入って来ても気にすることなく、遊びに夢中になっている子ども達の姿がありました。1つ1つのコーナーが少人数で遊べるように丁寧に作られており、安心してくつろげる環境になっていました。

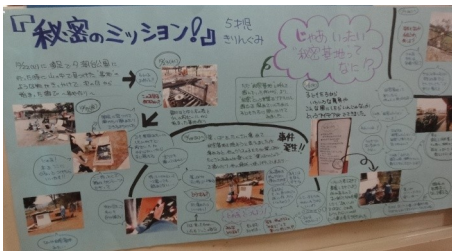


<北野先生コメント>

ままごとコーナーは、本気でトントンと包丁で切る真似をしている子がいた。最近ではピザ屋やマクドナルドの再現が多い。お茶を「どうぞ」と入れてあげるような家庭的な生活感のあるままごとを久しぶりに見た。このようなやりとりを大事にしたいと思う。キッチンが壁に向けて設置してあった。2歳は壁に向かっての方が集中・没頭しやすいと思われる。料理を出したりお店やさんごっこのように言葉でのやりとりが盛んになる3歳ぐらいからはオープン型キッチンにするとうよと考える。

お部屋に入ると、赤ちゃん人形を抱えている女の子がやって来て、「しいーつ」と言いながら指を立てて「静かに」のポーズをし、そして、体をリズムカルに上下させて赤ちゃんを寝かせているような姿が見られた。2歳児ながらに慈しみの気持ちや優しさがしっかりと芽生えているのを感じた。「本当だね、寝てるもんね」等その子の気持ちに共感して代弁するような関わりをこれからも続けてほしいと思う。

手先を使った遊びが棚から見えるように3～5つ用意され、自分で取り出せるようになっていた。製作コーナーは、集中してできるスペースがあり、絵本コーナーも保育者と1～2人の子が一緒に過ごせるような空間になっており、乳児保育において大切にしたい環境が整っていると感じた。



【秘密基地】5歳児

乳児室の裏側の隙間に5歳児の「秘密基地」がありました。きっかけは、遠足で見かけた山の斜面を利用した倉庫。園庭の真ん中に段ボールで作ったけれど、他のクラスの子ども達が入って遊び出し、これでは「秘密基地じゃない」となり、見つからない秘密基地を廃材(木材等の)で作ることになりました。クギ打ちが得意な子どもを中心に基地ができあがりつつあります。

<北野先生コメント>

子どもたちの中にストーリーや役割があると感じた(「変なやつが来ないか?」と入り口に双眼鏡がある、「入るためには合言葉がいる」等)。振り返りで「秘密基地ってこつだよな」「こつようね」ということを子ども

達と保育者でしっかりと共有されていることが感じられた。

クギ打ちは、気持ちを安定させ、集中する力を身につけるとも言われている。始めは、保育者がそばについて、使いこなせる経験が蓄積されてきたら、子どもたちの方から安全を考えて注意深くできるようになって来ると思われる。



グループワーク

参加者が、「環境と子どもの姿」「子ども同士の関係性」「保育者の関わりと子どもの姿」の3つの視点で保育を見とり、そのテーマ毎にグループに分かれて、よかったところだけでなく、これからの保育で挑戦してほしいこと等も含めて議論し、深めることができました。また、グループワークには実践者である岡田保育園の保育者に入っていたり、更に、充実した内容となりました。グループワーク後には、話し合った内容を報告し合い、学びを全体でも共有することができました。

【環境と子どもの姿】

- ◎2歳児の午前のおやつが一齐ではなく、遊びに区切りがついた子からというのにびっくりした。
- ◎大人が見ても素敵な環境で、本物がある(金づちなど)というところがよい意味で子どもに合わせていなくてよいと思った。(痛い思いをすることもあるが、しっかりと重みを感じられる)
- ◎カレー鍋やかんなどは数年前の水害で園の給食室で使えなくなってしまったものを現在は遊びに使っている。(よりリアルに再現できる)
- ◎“金曜日はカレーの日”というもあり、子どもたちの中に身近なカレー作りが遊びとして広がってきている。“隠し味”“各家庭の作り方”“具の大きさ”“辛口・甘口”などそれぞれに工夫したり、クッキングをよりリアルにおまごとして遊びに取り入れている。
- ◎ニコニコハウスに本物のティーカップが置いてあった。(子ども達の声から)本物を扱う中で、物を大事にする気持ちが育ったり、使い方を知ることができている。
- ◎“危ないからさせない”のは簡単だが、経験・体験の中から学ぶことが多いので、できるだけことができるように環境的に難しいところもあるが、みんなで声をかけ合って保育をしている。
- ◎積み木のタワーは、以前は片付けていたが、子どもたちの思いを大切にしたいという考えからそのままにしている。夕方の合同保育では0・1歳児と一緒に部屋で遊んでいるが、壊そうとすることもなく、次の日を迎えられている。
- ◎どのコーナーを見ても1つ1つのモノが大事に置いてあったり、使われていたり、素材も豊富で子どもたちがそれぞれに選んで遊べるという環境が素晴らしい。
- ◎廊下にお米の展示があったが、小さい子がいても全然混ざっていなかったという話をしていたら、混ざっていても5歳児さんが元に戻してくれる。どうしても触らないでほしいものには5歳児さんが自分たちで立て札を作っている。保育者が言わなくても年長さんに優しく教えてもらっている。
- ◎初めはままごとなんかもごちゃ混ぜになっていたが、いろいろ経験していくうちに食べる

ところと作るところを分けたほうがよいという考えに行き着き、現在に至っているとのこと。

【子ども同士の関係性】

- ◎全体的にトラブルもほとんどなく、それぞれに自分の遊びに没頭し夢中になって遊んでいた。
- ◎自分の好きな遊びを選んで遊んでいることや気の合う友だちが集まって遊んでいるのでトラブルも少ないのかなと感じた。
- ◎ネックレスを作っている場面で、ピンクと白のビーズを交互に入れてドングリを中心に左右対称に入れていきたい女の子と左からピンクばかりを入れてしまう男の子が一緒に作っていた。途中でピンクがなくなってしまうと男の子が足りない分のピンクのビーズを取りに行った。右からもビーズを入れて欲しかった女の子は何も言わずに、男の子がその場を離れた際に左のビーズを抜いて右に入れていたという場面があった。帰ってきた男の子もそれを見て何かを言うわけでもなく、ドングリをネックレスに通すための穴を協力して開け始めていた。少人数が故、何も言わなくても通じてしまうところがあるのではないかと。
- ◎5歳児11名という人数は、遊びが多いと分散してしまうので、子ども同士の関わりというところでは難しいところもある。一人一人じっくりと遊べるという利点もあるので、保育者が子どもたちの様子・遊びをしっかりから見極めていくことが大切だと思った。
- ◎秘密基地作りの間、いろんな子から“これは?”“あれは?”と聞かれている一目置かれた子がいた。元々は夢中になれることがなかったようだが、その子のお父さんが大工さんということもあり、周りの子から認められて自己発揮ができるようになったとのこと。遊びの中で子どもたちが活躍する姿が見られたのがよいと思った。
- ◎保育者の関わりと子どもの姿
- ◎子ども自らがする行動を任せていたり、委ねておられた。子どもを信じる、任せるといった部分が大きかったと感じた。
- ◎他園では人数が多いこともあるが、なぜあんなにゆったりと関わられるのかと感じた。しかし、少な



いが故に関わりすぎてしまわないように気を付けておられた。

- ◎子どもに対してみんな同じ意識をもって関わっておられるように感じた。禁止語があったわけでもなく、子どもを急がすこともなく、「○○をしよう」と促したわけでもないのに、子どもと保育者の間に言葉では見えない関係があったように感じた。
- ◎3歳児が遊んだ後のカレーの鍋で、2歳児が遊んでいた。大きい子たちが残した遊びを小さい子が継続して遊びを共有するという姿がよいと思った。
- ◎2歳児であっても、おやつやトイレという一連の流れは保育者がそばについていなくても、子どもたち自らできるというのがすごいと思った。
- ◎2歳児は、じっくりと安心して遊べる保育室でままごを楽しんだ後、幼児クラスのパンやさんのところでも楽しそうにしていたので、一緒に参加して、お店屋さんごっこのようなやりとりを楽しんでもおもしろいと思った。
- ◎指示や命令ではなく、語りかけや自分達で考えたり気づきのヒントとなる言葉がけが印象的だった。
- ◎子どもに興味や期待を持たせるような豊かな言葉がけがされていた。食べ物1つでも“今日はこれはどんな味かな?”と次への期待が膨らむような言葉がけが印象的だった。
- ◎幼児は雨が降ってきても保育者が部屋に戻することを促すのではなく、判断を子どもに委ねておられるのが、子ども達がのびのびと過ごす1つの要素になっているのではないかと感じた。
- ◎“お片付けしよう”という言葉がけはしない。“お片付け”というのは子どもにしたら“もうお片付けか…”負のイメージにもなるので、“元に戻そう”や“今日は閉店ね”などの言葉に言い換えて伝えている。
- ◎物が豊富に揃っている環境の中で、物の数を減らしてみたら子どもたちがどのようにして関わるのか?を見てみたいという意見が出ていた。



カンファレンス

【全体】

- ◎今日も力のある先生たちが集まっていると感じた。舞鶴市と関わりをもち早6年…グループワークの報告を聞いていて地域の底力を実感した。
- ◎じっくりと幸せそうに遊んでいる子どもたちの姿がとても印象的で、本当に穏やかで優しい子どもたちだと感じた。2歳児の部屋に入ったときにもこんな風に遊んでいるのかと本当に驚いた。
- ◎広すぎず、狭すぎず、保育者に援助を求めたり、保育者が子どもとのちょっとした興味や

関心に気付いたりしやすいちょうどよい空間と人数と感じた。北欧に行ったような気分になった。

- ◎穏やかで優しく幸せそうで、でも、内心では聞いて欲しかったり、言いたいことがあったり、イヤだなと思いつつ折り合いをつけたり、そんな関係性が保育者と子どもに感じられた。
- ◎【木のおもちゃ】【自然物】【手作り玩具】がどのクラスにも共通して意識されている。かりんの香りがほんわか漂い、落ち葉のじゅうたんが四季を感じられ、豊かな自然を満喫できる素敵な環境を大事にしてほしいと思う。

【環境】 ※Page1にも記載

- ◎ニコニコハウスに本物の食器が置いてあった。家庭でも特別な時と普段とで使い分けたりするように、場面によってそういうものが使える環境はあってもよいと感じた。
- ◎怖そうにビクビクと物を触っていないかという視点として見ていくと、園の子ども達はビクビクしていなかった。保育者には、形ある物はいつか壊れるという寛容性が大切だと感じる。子どもにとっても形あるものは壊れるという体験も大事なことではないかと思われる。

◎物を大切にすることとビクビクすることは違うことからも保育者の関わりが重要になってくると思う。

◎絵本も今、興味のあるものをピックアップして、15冊ぐらいが見える、取り出せる環境にしておくとういと思われ。絵本が見やすく読みやすい状態にあると、読みたい気持ちも刺激されるのではない。

◎はかりが置いてあり、収穫した野菜や自分ではかりたいものをはかったり、グラフを書いたり、楽しんでいる感じが感じられた。乳幼児期の子ども達のすることは正しさを求めなくてもよいと考えている。たくさんの物と関わるのが重要だと思う。



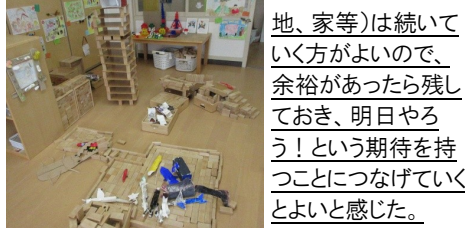
◎子どもの見えるところ、手に届くような低いところに並んでのもよいと感じた。

◎すぐにはかかったり、比べたりができる道具を置き(虫眼鏡、はかり等)、調べられるものと実物が近くにある方が関わり方も深まると考える。

◎室内には、子どもの作ったものが飾られており、保育者が可愛いものを一生懸命作るのではなく、子どもと一緒に作ったり、飾ったりする方がよいと考える。

◎積み木は、絵や文字の無い低構造のものを選ぶ方がそれぞれイメージを持って作ることができると思われる。同じ形の無地の積み木がふんだんにあり、友達とイメージを共有して遊んでいると感じた。

◎また、続きがいつでもできるような環境となっていた。ストーリーのある展開のもの(基



地、家等)は続いていく方がよいので、余裕があったら残しておき、明日やろう!という期待を持つことにつなげていくとういと感じた。

【その他】

◎運動能力の高さを感じた。自由に動き回れる環境が日頃からある蓄積ではないか。

◎子ども達の製作が画一的でないか?という視点で見ると、1つとして同じものがなく、それぞれに個性が出ているように感じた。

◎子ども達はイメージを持って作っているの、“何を作りたいから何を使うか”“何に必要なから何を選ぶ”というように材料を選んでいた。量ではなく、いろいろな素材を置き、それが何か分かり、自分で取り出して作れるのがよいと感じた。

◎保育者が用意するだけでなく、家にある物で自分が作りたいものが作れるように、それに使う素材を自分達で選んで持って来ると大事と考える。

【ドキュメンテーション】

◎子どもたちの実験の様子を実物を置きながらドキュメンテーションとして書いてあり、また、子どもから見える場所というのもよいと感じた。

◎ドキュメンテーションやおたよりが本当に丁寧に作ってあり、内容も充実していると感じた。

◎次のステップは、“子どもたちは何をよく見ているのか”“どの子がどのドキュメンテーションを見ているのか、どのように振り返っているか”という視点でも見てほしいと思う。

◎ドキュメンテーションは、当初保護者に説明する媒体として広まってきたが、保育者同士が他のクラスの様子や発達による差に気付ける役割もあると思う。

◎ドキュメンテーションを子どもの振り返りにつなげ、子どもと共有したり、他者の経験を擬似的に感じたり、気付いたり、関心を持たたりして

広げていくこともできると考える。

【集会場面(振り返り)について】

◎次への意欲につながるクロージングを推奨したい。

◎3歳児から振り返りをやってほしいが、自己中心性が高いので難しい面もあると思われる。人の話を聞くよりも、話したいという気持ちが強いので、3歳児は半分ぐらいの子が聞いていたらよいと思してほしい。平等性や規律性・態度を考えるのは少しよいのではないかと。まずは、保育者に人前で話を聞いてもらう喜びを感じられるようにしてほしい。その経験の積み重ねが次につながると思う。

◎振り返りは状況に応じてできるので、30人だと多かたら10人ずつぐらいでの振り返りでもよいし、盛り上がっている遊びごとでもよいと思う。

◎ポジティブに、意欲につながるクロージングにし、どんな小さなことでも、“いいね”という自分に対する肯定感や自尊心のイメージを育んでほしいと思う。

◎話を聞くために我慢したり、叱られたりするようなイメージで終わるのではなく、よりよい自分、もっとこうなれるかも、“〇〇ちゃんよかったね”等、肯定的なイメージが持てるようにされているのがよかった。

【子どもの主体性の尊重と保育者の自己発揮】

◎保育者は、マニュアル化できない困難さや自らの責任で判断を下さなければならぬ厳しさのある専門職である。

◎保育者は、“あれもしたらあかん、これも言わないでおこう、こういう時はこうしなくちゃ”という真面目さからも脱却してほしい。

◎保育の文化は、謙遜、善意といった部分が大きく、自己評価が低くなりがちと感じている。子どもたちのために頑張りすぎて疲弊してしまう危険性もある。また、他の同僚への要求や期待が高くなりすぎる傾向もあり、厳しくなるあまり、萎縮してしまうこともあると思う。

◎期待があるからお互いに厳しくなることはあるが、力をもっているのに過小評価傾向のある保育者は、得意なことやよいところをどんどん伸ばして、自信を持って、自分の力を評価してほしいと思う。

11月12日 ドキュメンテーション研修を実施しました

グループに分かれ、参加者の書いたドキュメンテーションをワークシートの視点にもつづき、検討するグループワークを実施し、北野幸子先生より、それぞれのドキュメンテーションについてご指導いただきました。

【北野先生コメントより】

◎実践力をつけるためには、実践を見たり、実践を題材にして思考したりしていかないと力はつかないし、経験年数があったとしても、実践を振り返らず、やりっぱなしにしているとも力はつかないと考えている。

◎ドナルド=ショーンによると、人と接する専門職(医者、美容師、弁護士、保育士等)は、自分の実践を振り返り=リフレクションすることで専門性を高めていくとしている。

◎同じキャリアでも、実践力のある人は選択肢をたくさん持っていると考え。

◎記録を題材にして、実践を実際にした人としていない

人、いろんな人達が意見を出し合うことは、明日の保育のどっさの判断の糧(選択肢)になると思われる。

◎判断の根拠になる、判断するにあたって自信になるような確固たるものが自分の中にあるかないか、経験を咀嚼して、意味づけして、意味とセットで自分の実践を持っておくとういと思われ。

◎一人より他者で行うことや、同僚と語り合うことが大切ではないか。ただお喋りではなく、“何がよかったか、どこを工夫したか、どんな援助がよかったか”と深めていくとういと思われ。

◎よいドキュメンテーション、完璧なドキュメンテーションではなく、考える題材にしてほしいと思う。昨日のこの子と今日のこの子は頭の中身、考える力、感じる力、脳の中身が日々進化していると考え。こうすれば上手くいくということはなく、私達も常に考えながら、目の前にいる子どもから判断し、決断し、行動して保育をしてほしいと考える。

参加園

さくら保育園
 昭光保育園
 なかすじ保育園
 東山保育園
 八雲保育園
 ルンビニ保育園
 うみべのもり保育所
 中保育所
 西乳児保育所
 朝来幼稚園
 池内幼稚園
 シオン幼稚園
 舞鶴幼稚園
 (50音順)